

Title	編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第2号)
Author(s)	
Citation	泌尿器科紀要 (1957), 3(2): 180-180
Issue Date	1957-02
URL	http://hdl.handle.net/2433/111405
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

編集後記

本誌会員各位に申し上げます 本誌に就きましては平素より格別の御後援を頂き厚く御礼申し上げます。おかげ様にて順調に生長、発展しており、喜ばしき限りであります。一面には原稿が漸く輻輳して参り、従来の様な隔月発行にては原稿が渋滞する惧れが生じて来ました。之は著者に対してまことに相すまぬ事であり。そこで論文の誌上掲載を出来るだけ早くするために毎月発行に変更したいと思います。早速ながら3巻1号よりその様に取り計らいたいと存じますので、事情御諒承の上にて今後とも引続き会員として御援助賜ります様をお願い致します。尚御寄稿に就てもお願い致します。



従来は年6回発行、前金600円(送料共)でありましたが、3巻よりは年12回発行、前金1,000円(送料共)に致しますので、御諒承をお願い致します。

論文中の図表は欧文で記して頂くのがよろしい。そうすれば欧文抄録と図表だけで外国人にも大略の要旨が理解出来ると思います。欧文抄録は内規にもある様に300語以内をお願いします。

前号3巻1号岡氏の論文中13頁右側26行目に脱字あり、28と記入して頂きます 茲にお詫び致します。

同号33頁に乱丁のものがありましたら御知らせ下さい。お取換え致します。



泌尿器科の論文を発表するのはどの様な雑誌がよいであろうか。雑誌の種類を大別すると総合雑誌と専門雑誌であり、各大学発行のものは前者の中に入る。臨床的な総合誌は発行部数が多いが内容は内科的なものが大部分を占め、読者も内科関係者が多いのではなかろうか。従つて泌尿器科の論文を掲載するとしても綜説的なもの或は実地医家向きのものが適当であろうと考えられる。大学雑誌は多くの泌尿器科専門家の目に触れることは割合に少ないのではなかろうか。大学雑誌に載せねばならぬ場合もあろうけれども実際には専門家が読む事は少ないであろう。この様に考えてくると泌尿器科論文の様に比較的特殊なものは、多数の専門医家に読まれると云う点から、やはり泌尿器科の専門誌に掲載するのが最も適当であると思われる。然し之に就ては更に精しく考え、紙幅も充分に費して論ずる必要があろう。

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。
2. 会員は年間料金1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都4772番泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない、400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿器要、1：110、昭30。Lazarus. J. A. : J. Urol., 45 : 527. 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部